

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成29年度 第2回 入間市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成30年3月14日(水) 午前10時00分 開会、午前11時35分 閉会
開 催 場 所	入間市リサイクルプラザ 2階研修室
議 長 氏 名	入間市廃棄物減量等推進審議会 会長 小林昌幸
出席委員(者)氏名	相葉 学 奥山重信 釦持和夫 小林昌幸 篠塚玲子 多田ひとみ 永井健一 沼井里恵 向野康宏 森谷秀一 師岡 武
欠席委員(者)氏名	岡野こずえ 関根精隆 山本有男 和田伸二
説明者の職氏名	環境経済部部长 山崎利明 環境経済部参事兼総合クリーンセンター所長 栗原庸之 環境経済部副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 石川昌輝 環境経済部副参事(管理業務担当兼宮寺清掃センター所長) 横田一洋 総合クリーンセンター(事務局) 副主幹 齋藤政弘
会 議 次 第 (公 開)	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) 第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案) 【アクションプラン】の策定について (2) その他 4 その他 5 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案)【アクションプラン】 資料1 第3次ごみ減量・資源化に関する行動計画 資料2 平成28年度ごみ減量・資源化に関する行動結果報告書
事務局職員職氏名	環境経済部部长 山崎利明 環境経済次長 長谷川 功 環境経済部参事兼総合クリーンセンター所長 栗原庸之 環境経済部副参事(清掃指導・ごみ減量推進担当) 石川昌輝 環境経済部副参事(管理業務担当兼宮寺清掃センター所長) 横田一洋 総合クリーンセンター(事務局) 主 幹 増岡貞夫 副主幹 齋藤政弘
会議録作成方法	要点筆記

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

○議題

(1) 議題に対する審議

事務局より次の点について説明をした。

- ・第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案)【アクションプラン】の説明
- ・資料1「第3次ごみ減量・資源化に関する行動計画」の附属資料の説明
- ・資料2「平成28年度ごみ減量・資源化に関する行動結果報告書」の附属資料の説明
⇒ 資料のとおり了解をいただいた。

(2) その他

今後の審議会スケジュールについて説明を行った。

- ・委員の任期満了（平成30年9月末）まで、会議を開催する予定がないこと。
- ・新委員による第1回会議の開催を11月頃に予定していること。

○その他

- ・新最終処分場の進捗状況について説明。

以上

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
(増岡主幹) 小林会長 小林会長 一同 小林会長 (齋藤副主幹)	<p>1 開 会 (配布資料の確認を含む。)</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>本日の出席委員の人数は、11名です。よって、「入間市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第2項」の規定に基づき、委員の半数以上が出席していますので、会議は成立となります。</p> <p>続きまして、本日の会議録の署名について、議長のほか1名以上ということですので名簿順で向野委員にお願いしたいと思います。異議ありますか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、議事に入ります。本日の議題は2点となっております。1点目としましては『第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案)【アクションプラン】の策定について』、2点目が『その他』となっております。はじめに議題(1)『第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案)【アクションプラン】の策定について』、事務局から説明をお願いします。</p> <p>3点ほど資料のご説明させていただきます。</p> <p>1点目として、第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案)【アクションプラン】について説明させていただきます。一般廃棄物処理計画では、①ごみ排出量、②資源化率、③最終処分量の3項目について目標値を設定しています。この3項目の目標を達成するため、4つの大きな施策として、環境意識の啓発、ごみ減量の推進、リサイクルの推進、ごみ処理施設の充実を掲げ、32項目にわたる個別施策について、それぞれ現状および目標値を記載しています。</p> <p>今回作成した第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画は、平成29年度から平成32年度までに具体的に取り組む内容を記したもので、アクションプランと呼ばれているものです。</p> <p>2点目として、補足資料として資料1「第3次ごみ減量・資源化に関する行動計画」は平成25年度から平成28年度までの計画であり、廃棄物処理計画を改定したことに伴い新たに(第4次)策定したものであります。尚、前計画(第3次)では32項目の個別施策に対して、14項目だけしか行動計画を示していないこと、審議にあたっては廃棄物減量等推進審議会ではなくごみ減量化等推進協力会で審議している点で不備が見られました。今回</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>小林議長 釦持委員</p>	<p>は、事務局で修正したものを廃棄物減量等推進審議会で審議していただくものです。</p> <p>3点目として、補足資料として資料2【平成28年度ごみ減量・資源化に関する行動計画結果報告書】は行動計画【アクションプラン】に従い、1年度ごとに行動結果をまとめたものです。</p> <p>それでは、第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案)【アクションプラン】に基づき事務局より説明させていただきます。</p> <p>※「資料1」を使用し、以下の内容について要点説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 1 行動計画策定の趣旨（市民・事業者・行政の三者が協働で3Rの取り組み、具体的な個別施策や目標値を定めた実行計画） ・ P 1 基本方針（3Rを基本としてごみを減らし循環型社会の実現を目指す） ・ P 2 基本施策（施策環境意識の啓発、ごみ減量の推進、リサイクルの推進、ごみ処理施設の充実） ・ P 3 数値目標（一般廃棄物処理基本計画、平成29年7月改訂版の数値目標に改める） ・ P 4～14 個別施策（学校教育との連携の促進等目標を推進、実施など抽象的な表現でわかりにくかったものを、できる限り数値化し、表が見やすいように表記を工夫したことを強調） <p>今後、個別施策の取り組みについて、平成29年度行動結果報告書をまとめものを委員の皆様へ報告し、その結果を検証していくようなかたちで考えております。</p> <p>また、『第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画(案)【アクションプラン】の訂正箇所について以下のとおり訂正をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 4 一番下段 <p>1点目、③<u>いるま</u>ケーブルテレビの「いるま」を、漢字の「入間」へ変更</p> <p>2点目、P 9 No.1 6 高齢者等のごみ出し支援の検討の目標</p> <p>③介護ボランティアポイント制度を削除する。</p> <p>④福祉部門等・・No.を③に変更する。</p> <p>委員の皆様からご質疑等はございますか。</p> <p>P 3 (2) 資源化率の目標にて、「新たな資源化施策を展開する」とありますがどのようなことですか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
(石川副参事)	この計画を作成した時には焼却灰1,000トンの資源化を実施しております。平成30年度は1,200トン焼却灰の資源化予算を要求しましたが認められませんでした。実行できれば資源化率が上昇すると考えていました。平成32年度までに、資源化率を上げる取り組みとして、小型家電、雑がみ回収の精度を高いものにして資源化率を上げていきたいと考えています。
相葉委員	行動計画とアクションプランは同じことですか。行動計画の表紙にアクションプランの記載がありませんがいかがですか。
(石川副参事)	説明の中では、アクションプランという言葉を使いましたが、正式には「ごみ減量・資源化に関する行動計画」であり、同じものであります。
相葉委員	第4次ごみ減量・資源化に関する行動計画は、平成29年度～平成32年度の4ヶ年ですが、No.13ごみ減量アクションプランでは、行動計画が5ヶ年間と違いがありますが、どうしてですか。
(石川副参事)	記載に間違いがありましたので4ヶ年間に修正します。
向野委員	P4以降の個別施策についての表現で、施策を継続・検討するとの項目が並んでいますが、新たな施策と継続・検討の項目に分けて、市民に分かりやすい表現にするようにした方が良いと思います。
(石川副参事)	この継続・検討という表現は、廃棄物処理基本計画に基づいて記載しているものです。この基本計画を作成した時に目標として継続・検討、数値目標を記載させていただいたもので、これに併せ行動計画も同じ表現にしています。
小林議長	同じ表現を使ったということですが、表現が分かりにくいというご意見がありますので、次回作成時にはもう一度検討し、この意見を参考に見直しを図っていただきたいと思います。
(石川副参事)	研究させていただきます。
森谷委員	P10 No.19収集体制（頻度）の継続という項目が、新しく項目に入っています。他市でも可燃ごみの収集が週に2回で行っているところがあるので、入間市でも3回を2回へ減らしても良いと、私は審議会の中で意見を述べさせていただきました。平成32年度に向けて具体的に収集頻度の研究・検討するとはどのように考えていますか。
(石川副参事)	平成32年度までに現在の収集体制を変えるという前提ではなくて、必要に応じて研究をしていくという考えです。可燃ごみの週3回の収集は市民に

発 言 者	発 言 内 容
森谷委員	<p>定着しており収集回数を減らすということは難しいところです。仮に変更するにも1年、2年で出来るものではありません。もし、そのような話があった場合に備えて、日頃から研究をしていくとの考えで記載をさせていただいたものです。</p>
(石川副参事)	<p>No.19 収集体制（頻度）の継続とは、積極的に対応するというより何かインパクトがあった時に検討してみようとの考えが見受けられます。もっと積極的に考えても良いのではと思います。</p>
(石川副参事)	<p>確かに言われるように積極性がないことは理解しているところですが、現状では週3回の収集を維持していきたいという市民の意見もあります。ただ必要が生じた時には変えられるように研究をしていくということで考えていただければと思います。</p>
森谷委員	<p>ごみを減量するということが大きな目標であって、それは市民の協力があって始めて達成できることです。ごみ減量キャンペーン、広報紙による啓発など通じて、ごみの削減目標値を達成していかなくてはならないと思います。その一環として個別施策のNo.19 収集体制（頻度）の継続、No.14 家庭系ごみ有料化の検討項目が、ごみ減量にどのように寄与するかということを研究した方が良いと思います。</p>
小林議長	<p>ごみの減量施策については、行政だけでなく大学を巻き込んでいろいろな研究が進められております。今まで良かったということが、まるっきり違うような答えが出たりすることがありますので、是非、事務局でもいろいろな資料をみながら前向きに検討していただきたいと思います。</p>
向野委員	<p>ごみ有料化の話が出ましたが、民間業者が粗大ごみを安く回収する事例がありますが、公共機関だけが行う必要性はないと思うのですがいかがですか。</p>
小林議長	<p>ごみ処理は地方自治体自らが自己処理しなくてはならず、民間へ任せる場合は整合性を図る必要性があり難しい問題です。</p>
師岡委員	<p>P3（1）ごみ排出量の目標値、表の区分の現状（平成27年度）は、ごみの排出量の実績を表しているため、「現状」から「実績」に表現をあらためた方が分かりやすいと思いますがいかがですか。</p>
(石川副参事)	<p>事務局で検討させていただき、次回の時に反映させていただきます。</p>
森谷委員	<p>今の文言の検討ですが、廃棄物処理基本計画に沿って行動計画が作成されているので、部分的な見直しは整合性が図られないと思います。</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林会長	トータルでみて文言を検討していただければと思います。
釧持委員	P 5、2行目「⑤ごみ分別アプリによる情報発信」とは、具体的にどのようなものを発信するのですか。
(石川副参事)	情報発信として、毎月第2日曜日リサイクルの日のイベント情報、その他に降雪による収集体制の遅れについてのお知らせなど発信しております。
釧持委員	P 5 No.3 「②廃棄物を利用した創作展等の開催を研究する。」については実際に実行できるのですか。
(石川副参事)	前回計画では開催するとうたっていましたが、今まで計画をするのが難しく、どのような形で実施したら良いか見通しも付いていないことから、開催から研究に記載を変更させていただいております。
沼井委員	廃棄物を利用した創作展が実施できたらおもしろいと思っています。開催を研究するから検討するに表現を替えていただけると、より実施に向けて見通しが明るくなると思います。
小林会長	難しいと思いますが、少しでも前進できるよう努力していただきたいのご意見だと思います。
(石川副参事)	開催したいとの思いがあるのですが、現状では他の業務に時間を費やし新規事業をはじめるとまでは至っておりません。小・中学校へ3Rのポスター展の参加などいろいろな事業をお願いしており、新規の事業として学校へ依頼するにも調整に相当時間を要するため、現時点では研究するに留めています。
釧持委員	P 5 「廃棄物会計の導入の検討」について、廃棄物会計は専門的な知識が必要と聞いておりますが、対応できる職員が総合クリーンセンターにいるのですか。
(石川副参事)	国が作成した廃棄物会計システムの運用と廃棄物会計を理解できる職員がいない状況です。
奥山副会長	廃棄物会計の内容について説明をお願いします。
(山崎部長)	廃棄物会計とは、ごみの種別や処理方法を細かく分け、個別に経費や損益等を算出し、はっきりとごみの種別毎に処理費の原価計算に努めることを目的としたものでございます。そのごみ処理費用が他の自治体と比較して高いか、安いかをみるのが廃棄物会計の基本的な考え方です。
	大都市、小都市ではこれ位であると比較することによって、自分たちの自治体をもっと安く出来るのではないかとということをやることが国が求めている

発 言 者	発 言 内 容
	<p>るものであります。</p> <p>ところがそのごみの種別毎にやろうとすると、たとえば、ビン・缶を収集しているものを、経費を分けなくてはいけないということが難しいです。</p> <p>それをやるためには、専門職員の配置や業者へ委託して積算を委託しているのが現状です。</p> <p>そのようなお金をかけても、廃棄物会計を実施している自治体が少なく、入間市と同様の取り組みをしている同規模の自治体と比較できる自治体がないことからやる意味がないので、現時点では研究に留めていくという考えです。</p>
奥山副会長	<p>国が廃棄物会計を推進しているということですが、今後は廃棄物会計が実施されていくのでしょうか。</p>
(石川副参事)	<p>国が10年前位に廃棄物会計を導入した際システムを構築しましたが、県内に4～5自治体が導入した以降は増えていない状況です。国が積極的に進めている状況ではありません。また、国の廃棄物会計を積極的に導入するという意向があった時に、備えていくという考えで捉えていただければと思います。</p>
小林会長	<p>ごみの収集体制が各自治体によって違うため、統一した廃棄物会計を導入することは非常に難しいと思うのですがいかがですか。</p>
(石川副参事)	<p>たとえば、収集体制について入間市は全面委託であります。自治体によっては職員が実施しているという形で大きく処理費用が違ってきます。それは、土台が違うものを比較しても意味があるのかということと、自治体で導入しているところが少ないので比べようがないと考えております。</p>
小林会長	<p>ハードルが高いと理解してよろしいでしょうか。</p>
(石川副参事)	<p>そのとおりです。</p>
釧持委員	<p>P8No.14「家庭系ごみ有料化の検討」について、①県内自治体の有料化の導入状況を把握するとの目標がありますが、何年か前に有料化を検討する際に調査を行っていたことから、これは最新の情報を把握するということでしょうか。</p>
(石川副参事)	<p>そのとおりです。当所で把握していた有料化を実施している自治体数の最新の情報を把握することや近隣市が有料化の導入を検討しているのかという情報収集を考えております。</p>
釧持委員	<p>埼玉県内が一番ごみの有料化が進んでいないため、調査をするなら県外の</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林会長	<p>自治体を含めて調査していくようお願いします。</p> <p>京都市は有料化するか個別収集を行うというのではなく、個別収集を始めるのに費用が掛かるから市民に協力してもらいごみの有料化を進めたと聞いています。日々いろいろな形で考え方も変わっていくので、いろいろな検討を行っていただければと思います。</p>
釦持委員	<p>P 9 No.1 5 「分かりやすいごみ分別の検討」についてですが、分別が細かく難しいと思います。雑がみを例にあげると禁忌品として写真、臭いのついたもの、ティッシュ箱入口のビニールを取らないといけないもの等リサイクルできない商品が多いです。市民に分別を要求するだけではなく、企業が分別しなくても良い製品を開発するような方向へ、国、県、自治体が要請するような行動を取って欲しいと思います。</p> <p>例を挙げるとペットボトルのラベルがプラ製品ではなく、ペットボトルと同じ素材で出来ているものがあり、そうするとラベルを剥がす作業が一つ減り市民にとって分別しやすいことになるとと思います。</p>
小林会長 (石川副参事)	<p>そのようなことを発言する場所はあるのでしょうか。</p> <p>公益社団法人全国都市清掃という団体があり、毎年市町村から要望事項を国へ要望しています。容器リサイクル法についての要望はいろいろな自治体から要望が出ていますが、釦持委員が言われたペットボトルのラベルの件については具体的に出ておりません。意見を言う場はあるということでご理解いただければと思います。</p>
小林議長	<p>要望できる場所があれば、多くの自治体が同じようなことを発言していけば実現できることもあると思いますので、諦めずに発言していただければと思います。</p>
奥山副会長 (石川副参事)	<p>P 1 1 No.2 4 「ごみの資源化の推進 ②小型家電リサイクル事業を推進するため、平成29年度、4公民館に回収ボックスを増設する。」とあり、私は高倉公民館の回収ボックスを利用していますが、1年間にどのくらい小型家電が回収されましたか。</p> <p>平成29年4月から12月にボックス回収された小型家電の数ですが、高倉公民館80件、市役所1、100件、多いところでは藤沢公民館の802件でした。いろいろ機会を通じて公民館だより等でPRのお願いしております。高倉公民館の回収が少ないのですが、徐々に増えて行くものと考えております。</p>

発 言 者	発 言 内 容
鈞持委員 (石川副参事)	<p>今回、施策項目が32項目と増えており、全てが実施できるのかと心配です。この施策の中でも重点項目として考えているものがあれば教えてください。</p> <p>第3次次ごみ減量・資源化に関する行動計画では、代表的な14項目を表記しておりましたが、実際に14項目以外のものも実施しています。今回は32項目全て記載したもので、新たに事務量が増えたものではありません。</p> <p>重点的施策としては、①小型家電リサイクル、②雑がみ回収、③ごみ分別アプリ、④食品ロスの4項目です。費用があまり掛からなくて、ごみの分別の精度を上げればごみの減量に繋がるということで挙げさせていただきました。</p> <p>小型家電リサイクルについては、各公民館へ小型家電の回収ボックスを置いた理由として、小型家電は不燃ごみとして回収された後は、破碎し埋められるという処理がされます。一方、回収ボックスに入れられた小型家電はそのままの形でリサイクルできますので、焼却施設、最終処分場の延命化や資源物として売却することでごみの減量が図られます。</p> <p>雑がみについても可燃ごみとして焼却するのではなく、分別していただければ資源物として売却することができます。</p> <p>ごみ減量に関する情報発信としてごみ分別アプリを活用します。</p> <p>食品ロスとして、埼玉県が進めている「彩の国エコぐるめ事業」に29店舗で食品ロスを無くそうと取り組んでいます。また、市役所の各課において宴会での食べ残しを無くすため、食べ切りタイムという運動を実施しております。今後は、商工会等を通じて広く入間市に浸透できるよう運動を進めて行きたいと考えております。</p>
相葉委員	<p>個別施策の全ての項目の表現に関係するのですが、例として「学校教育との連携の促進」とあり、促進とは現状より進めていくという意味だと思うのですが、目標値では【継続】（拡大）と記載され非常にあいまいな表現になっています。継続であれば現状維持で促進ではないと思います。</p> <p>「①社会体験チャレンジ事業を継続（拡大）する」を拡大するに書けないのか吟味して欲しいです。継続（拡大）という表現では、継続なのか、拡大なのか、どちらでも読み取れる表現になっています。結局この目標が達成できたのかどうか毎年評価する時に、継続ですと現状維持で目標が達成できたと捉えられてしまうので、促進、推進に対して目標が継続だとメリハリがな</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>篠塚委員</p>	<p>いように思えます。</p> <p>同じような意見ですが、施策について具体的に記載できないのですか。</p> <p>例えば食品ロスについて「登録店舗数を拡大する」とありますが、市民がそのことを分かっているのか。また、「ごみ“0”運動を推進する」と記載されていても実際にどういう活動をしているのか理解できるのでしょうか。そこまで求めることは細かすぎるのでしょうか。</p>
<p>(石川副参事)</p>	<p>促進と推進については、廃棄物処理基本計画のとおりタイトルに付けさせていただき、目標については数値化できるものはできる限り数値目標を記載させていただきました。それ以外は継続、研究、推進という表現にさせていただき、廃棄物処理基本計画に基づいて記載しております。</p> <p>表記についてより具体的にとのことですが、分かりやすい表記になるよう所内で検討させていただきます。</p>
<p>小林議長</p>	<p>表記については色々なご意見が出ていますので、次にこのような計画をする時には、どのような表記にしていくべきか、よく検討していただければと思います。</p>
<p>永井委員</p>	<p>P 3 0 No. 3 0 「災害時における廃棄物収集運搬体制の確立」で、一般廃棄物収集許可業者との協力体制を研究・構築するとありますが、一昨年の台風による河川が氾濫し、災害廃棄物を収集するのに大変苦労したと聞きましたが、施策の3 2項目中で災害対策はどの程度の位置付けで進めていくのですか。</p>
<p>(石川副参事)</p>	<p>国、県が災害廃棄物処理指針を策定したことにより、各市町村へ災害廃棄物処理計画を策定するよう指導が出ております。所沢市がその災害廃棄物処理計画の策定モデル事業の選定を受け、災害廃棄物処理体制の構築に向けて調査・研究を実施しました。そこで本年度ダイア4市で集まり、災害時における協力体制の構築をしようと会議を設けて調査・研究を行っているところです。</p> <p>災害がいつ来るか分からない状況で、少しでも早く災害廃棄物処理計画を策定しなければいけないと考えております。しっかりとした基本計画の策定ができなくても、災害が発生した時に職員がまず何をしなければいけないのかという目次みたいなものだけでも早急に作製する必要があります。</p> <p>また、災害廃棄物の仮置場については黒須河川敷、宮寺の仮集積場を指定しておりますが、どのように災害廃棄物を並べるのかという具体的な配置計</p>

発 言 者	発 言 内 容
小林議長	<p>果について報告書を予定しております。新委員については、今後、皆様の再任のご意向を確認させていただきますので、ご協力をお願いできればと存じます。また、公募募集については7月頃に広報誌、市公式ホームページでお知らせする予定です。</p>
(増岡主幹)	<p>ただ今、事務局から今後の審議会スケジュールについて説明がありましたが、委員の皆様からご質疑等はございますか。</p> <p>「特になし」の声</p> <p>特にないようでしたら、以上で全審議事項について終了とし、議長の座を下ろさせていただきます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、ご協力大変ありがとうございました。</p>
釧持委員 (栗原所長)	<p>続きまして、次第4にございます『その他』に移らせていただきます。事務局からお伝えすることはありますか。</p> <p>事務局からは特にございません。</p> <p>全体を通しまして委員の皆様からご質疑等はございますか。</p>
(増岡主幹)	<p>最終処分場について何か動きがあれば教えてください。</p> <p>平成30年度予算が成立されていない状況でのお話になりますが、新最終処分場を建設するための構想を作成するための予算を計上しております。概算的な費用を出すためにどのくらいの施設が必要かということ、コンサルをいれて総合クリーンセンターの職員と共に構想を策定する作業を、平成30年度から執りかかる予定です。そこから平成40年度の完成を目指して動き出しているところです。</p>
(増岡主幹)	<p>他に何かご質疑等はございますか。</p> <p>「特になし」の声</p> <p>これをもちまして、本日の会議を終了とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

発 言 者	発 言 内 容
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>議 長 の 署 名 _____</p> <p>議長が指名した者の署名 _____</p>	